

の雇用・就労促進について  
「チャレンジド(障害者)



# 社会支える障害者を

## ——就労促進へ70歳奔走



竹中ナミさんが優しく抱き、アニメ「ドラえもん」の歌を口ずさむと、重症心身障害を持つ長女麻紀さんは笑顔を見せた=神戸市東灘区で、梅田麻衣子撮影

て、相談に乗ってもらえないのか」。10月4日、一本のメールが、神戸と東京に事務所を置く社会福祉法人「プロップ・ステーション」理事長、竹中ナミさん(70)の元に届いた。自民党総務会長に就任した加藤勝信・衆院議員からだった。

書者の法定雇用率を水増しして、いたことが判明し、制度が揺らいでいた。渦中に厚生労働相の職を離れ、与党幹部として問題に取り組んでいた竹中ナミさんが、「おかな」と名乗る1億総活躍担当相時代から懇意にする竹中さんに助言を求めたのだ。

神戸に暮らす彼女は同12

日、東京・永田町に飛んでいった。「雇用率だけではあかん。チャレンジドが誇りを持てるような、多様な働き方のできる制度を新しく生み出さんと」。重度障害の起業家の例を挙げながら関西弁で発破をかけると、加藤氏はうなずいた。

永田町の政治家や霞が関の官僚は「ナミねえ」と呼び、一目置く。情報通信技術(ICT)を駆使して在宅のままパソコンで働ける環境を整えるなど、障害者の就労を支援してきた。金髪メッシュにジーンズ姿。「ギネス級」といわれる強心臓としゃべりを武器に政・官・財界を走り回り27年、気がつけば10月に古希を迎えた。行動力は衰えを知らない。

「チャレンジドを納税者に」。それが自らの「ミッション

ヨン(任務)」と言ふ。チャレンジドとは、障害者を呼称する米国で使われる言葉で、「挑戦すべき使命を与えた人」ととらえる。彼らを「福祉の受け手」から「社会の支え手」にしたい。

湧き出すパワーの秘密は重症心身障害を持つ長女麻紀さん(45)の存在だ。「この子の笑顔が私に力を与えてくれる」。チャレンジドの大転換に挑戦する。

6面につづく

取材・文 桜井由紀治